

工区紹介 ④の6

石山地区

石山地区は、横越排水路、栗ノ木川、通船川に囲まれた地域で、地区内を流れる大石排水路を境に石山部と木戸部に分かれています。地区内には小学校が7校、中学校が4校あり地区内の居住人口は7万人を超え、都市化が進んだ地域です。その中でも米をはじめ、イチゴや野菜が生産されています。

昭和26年頃から耕地整理が始まり、昭和43年には100町歩にも及ぶ転用が行われ、農地はビルなどに姿を変え、開発が行われるようになりました。昭和35年には越後石山駅が開業し、開業当時一日あたり40人～50人の利用だったが現在は約5000人が利用しています。昭和51年には新潟市園芸センターが開園し、園芸指導をおこなったり、公園として多くの方からも親しまれています。

石山地区の鎮守社である石山神社には昭和2年に建立された高さ10mにもなる



石山神社の昭忠碑

昭忠碑あります。この昭忠碑は船で運搬した、貨物列車に乗せて運搬したなどの謂われがありますが詳しいことは分かっていません。

狭く馬場には小沢家、歌人、弁護士と多才な才能を発揮した平出修の生面の記念碑が有志によって建立されています。

木戸部には木戸病院があり、組合員の皆様をはじめ、地域の方の医療・福祉の向上をおこなっています。

石山出張所はJA新潟市の向かいに旧石山村役場と併設してありますが、現在の場所に移転し、業務を行っています。都市化が進んだ地域で一般住民からの苦情等がありますが、渡辺工区長を中心に工区役員、職員が一体となり、各種事業、維持管理に取り組んでいます。



木戸病院

亀田郷の歴史探訪

土地改良前の農業

新潟市亀田郷土資料館
館長 三村 哲司

先号の本欄では土地改良前の農業の概略として、①田打ち、②客土、③畦ざらい、④整地、⑤田植え、⑥土取り、⑦主に春から夏までの農業の仕事について述べてきた。今回からは夏から秋への主な農作業について触れてみたいと思う。

⑦除草、夏から秋にかけて三回～四回行う。農業の歴史以前はもっぱら手作業で、災天の、腰をかめての作業であったが徐々に簡便な除草農具が使われるようになる。稲と稲の間を生える雑草を踏みつけ、枯らす手法である。(写真)でも灌水の多い時は全身を浸して行う重労働であった。

⑧畔組み、畔際(あぜきわ)の真菰を踏み倒し、日光の直射を助け、冬、春の風を防ぐための作業である。

⑨稲刈り、亀田郷は水深く、土質堅固な土地柄であるから農作業の際はカンジキという履物をはいて湿田に入っていく。日が短くなる晩秋、水の多い時は鎌の柄に巻き手をして田船から、「舟刈り」という小舟に田面を自由に稲を運搬し、自由に行う。

⑩ハサ掛け(架橋、ハサギと称し、間溝を3～4尺(1田程度)に保って水際に強い直立した樺木の下枝を降ろし並び良く植えこんで土作り、12～13段の大綱を張り、脚

立(キヤタツ)に乗って上段から順に稲を掛ける。一家総出の楽しい作業で、脚立には父親の業し、から母親や子供が投げ渡すのである。

亀田餅屋の指導者

佐藤晩葉の句碑
脚底の水が冷たし深田植
亀田郷芦山金鐘前



除草



ハサ掛け



稲刈り

亀田郷一斉清掃を実施しました

去る、6月1日田に亀田郷不法投棄対策連絡協議会主催による「亀田郷一斉清掃」が開催されました。亀田郷不法投棄対策連絡協議会は新潟東、江南警察署、新潟市、東日本高速道路新潟支社新潟管理事務所、亀田郷建設業協会、亀田郷土地改良区に亀田郷地域の不法投棄撲滅を目指す昨年7月に設立されました。今年で6回目となる一斉清掃は、地域環境の美化、農村景観の保全を図ると共にゴミの不法投棄防止の啓発を目的に、地域住民をはじめ行政、農業関係団体、学生、土地改良区職員から約1,000名のボランティアが参加しました。

当日は亀田郷内を14の班に分け清掃を行いました。親睦班では清掃に先立ち開会式が行われ、亀田郷不法投棄対策連絡協議会の五十嵐会長(亀田郷土地改良区理事長)や逢見副会長(新潟市環境部長)、下村副会長(東日本高

速道路新潟支社新潟管理事務所所長)から挨拶をいただき、亀田郷地域から不法投棄という言葉を知りましょうと協力呼びかけ、参加者は約3時間、空き缶やタイヤ、粗大ゴミの収集を行いました。

収集されたゴミは4トラック21台分の量でゴミをはじめ、タイヤ270本、テレビ61台、自転車18台などで昨年と比較し、大幅に減少しました。しかし、高速道路沿線や水路では不法投棄やゴミのポイ捨てが依然として行われています。亀田郷不法投棄対策連絡協議会では巡回・トロールなどの活動を行い、不法投棄の防止と環境保全を呼びかけていきます。



開会式 五十嵐会長あいさつ



地元の中学生も多数参加



集められた粗大ゴミの一部